

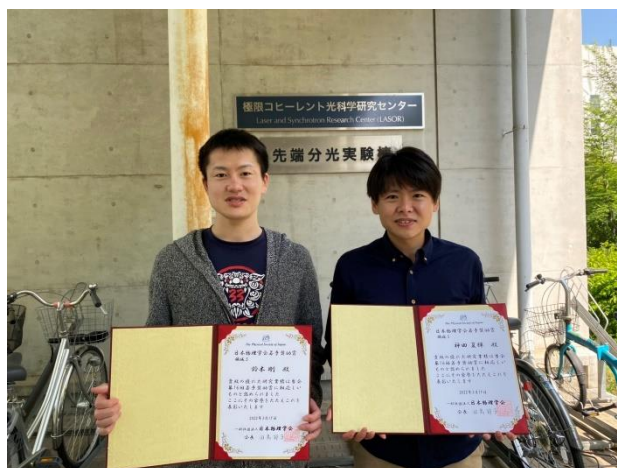
り、光励起キャリアの熱平衡化ダイナミクス及び Auger 再結合の影響を明らかにしたほか[11]、周期的な強電場照射下においてフロケ状態間共鳴とプラズマ振動に起因した巨大コヒーレント応答が現れることを最近発見しました [12]。

今回このような賞をいただけたことを励みにし、新しい研究にも挑戦していきたいと考えています。最近はマルチテラヘルツ帯でのベクトル波形整形の光源開発を進めており、ディラック半金属などを舞台とした物質の超高速制御の研究を計画、推進しています。これからの研究活動を通して、微力ながら当該分野及び物性研究所の発展に貢献していきたいと考えています。

最後に、今回受賞対象となった研究は、東京大学の五神真教授、小西邦昭准教授、松永隆佑准教授をはじめとする多くの方々と共同して行われました。数々のご助言を賜りました先生方に、この場を借りて深くお礼申し上げます。

- [1] N. Kanda et al., *Opt. Express* **15**, 11117 (2007).
- [2] N. Kanda et al., *Opt. Lett.* **34**, 3000 (2009).
- [3] N. Kanda et al., *Opt. Lett.* **37**, 3510 (2012).
- [4] N. Kanda et al., *Opt. Lett.* **39**, 3274 (2014).
- [5] T. Kan et al., *Nat. Commun.* **6**, 8422 (2015).
- [6] N. Kanda et al., *Nat. Commun.* **2**, 362 (2011).
- [7] M. Sato*, T. Higuchi*, N. Kanda et al., *Nat. Photon.* **7**, 724 (2013).
- [8] T. Matsuda, N. Kanda et al., *Nat. Commun.* **11**, 909 (2020).
- [9] B. Cheng*, N. Kanda* et al., *Phys. Rev. Lett.* **124**, 117402 (2020).
- [10] N. Kanda et al., *Opt. Express* **29**, 3479 (2021).
- [11] N. Kanda et al., *Nano Lett.* **22**, 2358 (2022).
- [12] Y. Murotani*, N. Kanda*, et al., arXiv:2112.13113.

*: equal contribution



同時受賞の鈴木剛さんと。右側筆者